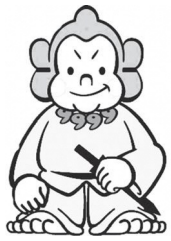
城陽市歷史民俗資料館
友の会だより
No.52
2023.10
編集発行：城陽市歷史民俗資料館友の会
〒610-0121 城陽市寺田今堀１番地　城陽市歷史民俗資料館
TEL0774-55-7611　FAX0774-55-7612　www.city.joyo.kyoto.jp/rekishi/
発 行 日：令和５(2023)年10月7日



蝉（せみ）

城陽市歷史民俗資料館友の会会長　泰地　賢治

京都新聞で連載中のコラム「冷泉貴実子が紡ぐ四季の言の葉」は、７月23日に「蝉」を取り上げています。「梅雨明けとともに鳴き出す蝉の声に、私たちは暑い真夏の到来を知ります。『村雨』に似た、すなわちにわかに激しく降る雨のような蝉の声、あるいは『滝の響きにまがふ』ような蝉の声にも、私たちは驚きません。ただ夏を覚えるだけです。」（京都新聞７月23日）。私も鴻ノ巣山を散策しながらアブラゼミやミンミンゼミなどの鳴き声に夏の訪れを感じ、ツクツクボウシの声に過ぎ行く夏を想うのです。

私にとって、蝉は身近な生き物です。夏休みには蝉取りに夢中になり、蝉の目は複眼２個と単眼３個の５個であることを知ったのは小学生の頃でしょうか。庭の古い大きな柿の木にたくさんの蝉の抜け殻を見たのもその頃です。折り重なったり今にも落ちそうになりながらも柿の葉にしがみついている抜け殻もありましたっけ。成虫の蝉の寿命は１週間程度であることから「蝉の一生は短い」ともいわれます。でも、蝉には地中での幼虫時代が７年もあるそうです。蝉の一生を考えたとき、これでは「寿命が短い」とも「夏の生き物」とも言えないかもしれませんね。一生と通してその大半を地中で暮らしているのですから。でも、蝉と聞けば、ジリジリとした真夏の昼下がりを思い出します。やはり「蝉は夏の生き物」ですよね。

暑い日が続いています。気象庁は「夏（６～８月）の平均気温が1898年の統計開始から125年で最も高くなった」と発表し、「夏全体で見て異常だった」と総括しました。また、「今年の夏は40度以上のところはあまりなかったが、猛暑日日数が多く、暑い時期が長く続いているのが特徴だ」とも語っています。（京都新聞９月２日）。「暑さ寒さも彼岸まで」と申しますが、まだまだ油断はなりません。皆様、どうかご自愛ください。

既にご案内の通り、友の会は今年11月に創立20周年を迎えます。そこで、友の会ではこれからご参加頂ける記念事業として、若林正博先生（京都府立京都学・歴彩館）の特別講演会（演題「いつも寺田があった。将軍・家康の視線の先に。」、10月28日）や従来よりも多い今年３回目の研修見学会（第57回、関ケ原方面、11月11日）を企画しております。この時期には夏の暑さも遠のき、過ごしやすい気候になっていると思います。ご都合の良い方は、奮ってご参加ください。役員一同、心からお待ちしております。

令和５年度秋季特別展
「城陽の絵図と地図
――描かれた近世の村――」
10月21日（土）～12月17日（日）

第 55 回研修見学会に参加して

［道の駅 なら歴史芸術文化村］・［天理参考館］見学

城陽市歴史民俗資料館友の会会員　竹久　滋郎

葵祭が過ぎて本格的な夏が近いことを感じます。前日は５月とはいえかなり蒸し暑く、当日はその逆で肌寒くなり５月の雨となりました。

［道の駅 なら歴史芸術文化村］

この施設ができて約１年余りと聞いており、施設全体が気持ち良い感じでした。当月は上皇ご夫妻が見学されたことでも有名になりました。日本の歴史や文化を体感しようと、私たちは地元に精通したガイドの案内で館内に入り、まず目にしたのは正面受付左手に薬師寺東塔の大きな木製の模型でした。案内によると本物の約 10 分の１の大きさで、屋根が６つあり、内部は三層であとの屋根は飾り屋根だそうです。模型とはいえ、とても精巧に作られていて感心しました。文化財修復展示工房では、仏像と彫刻、絵画と書跡、歴史建造物、考古遺物等を４つの分野に分けて１階と B1 階に展開されていました。説明によると「当初奈良県内に散在していた文化財修復施設（４分野の文化財）をこの文化村に集中させ、技術者を育成して、文化財や芸術に触れる機会を増やし、観光産業を伸ばしていく（これは日本で最初の試みだそうです。）。そして、現在各工房でどのような修復作業がなされているか、文化財の価値について考えることが大事である」とのことです。文化財修復棟では、国宝・文化財修復の優秀な技術を保持した団体が工房を担い活躍しています。４分野の修復技術団体とは、①仏像・彫刻＝公益財団法人美術院、②絵画・書跡＝株式会社文化財保存、③歴史建造物＝奈良県文化財保存事務所、④考古遺物＝天理市教育委員会等です。仏像をはじめ、多くの文化財は作られてから今日までかなりの年月が経っています。この団体の大事な任務は、その間、幾度もの修復を得て大切に守り伝えていくことであると思われます。また、作業が長時間に及ぶのと繊細な神経と忍耐が必要とされ、疲労度が大変かと思いました。年配の方が多いと思っていましたが、20 歳～ 40 歳代の比較的若い人たちで驚きました。あと「対話型の鑑賞スタイル」というシステムを取り入れ、従来の一方的な説明の聞き取りではなく、専門家や参加者との対話、レプリカに触れたりしてお互いの親近感を高めるよう心掛けているとのことでした。

修復展示工房で実際に修復される様子を見学

［笠荒神神社前笠そば］

雨が降りしきる中、荒神の里、標高 500 ｍの山の上で笠そばを自家栽培している場所に着きました。元々は村おこしを目的として地元の多くの人たちによって始まった蕎麦の栽培でしたが、今は約 20 ヘクタール（約６万坪）もの広大な土地を使用して栽培しているそうです。蕎麦は機械ではなく、石臼でつくるので熱が出ておいしいとのことです。店内は我々を含めて一杯になり、順番に並んで私はザルそばを頂きました。本当に天気が良ければ途中にある天理ダムへ立ち寄ってみたかったのですが、残念ながら荒神の里をあとにしました。

［天理参考館］

途中、道路にはゴミ一つ見当たらず、なるほど宗教都市天理市だと感心しました。天理参考館は、すごく静かで他の見学の方々は殆ど見当たらず、貸し切りのようでした。見学の前に受付でジャック型イヤホンを借り入れました。この施設は天理教教会本部の正面にあって、天理教らしい建物となっています。民俗学・考古学系の博物館で、主に世界各地の生活文化資料・考古美術資料を収集・研究・展示するほか、遺跡の発掘調査等を行っています。なぜ、これだけの収集がされたかと言いますと、天理教を世界に布教しようという人々に、現地の風習・習慣を知ってもらおうという意図のもと、資料収集が始まり、天理大学の前身である天理外国語学校に収蔵されたのです。博物館は 1930 年(昭和５年)のオープンで収蔵品数は約 30 万点と大変多く、現在の参考館は 2001 年（平成 13 年）に再オープンされ、現在は約 3,000 点を「世界の生活文化・考古美術」の２部門に分けて展示されています。展示品の数が多くありますので、何点かに絞って説明したいと思います。

「天理参考館」展示車両の前で記念撮影

常設展示は、１階と２階が「世界の生活文化」、３階が「世界の考古美術」とテーマ別になっていました。１階は主に世界各地から集められた民芸品や祭祀用具等の展示が中心でした。手仕事で作られた生活道具、家の中に飾られた祭壇、祈りの道具、村を守る守り神とかです。そして、その生活道具等が暮らしの中でどのようにして使われていたのか、その生活ぶりを再現した展示が多くあり、興味深かったです。印象に残るのは、朝鮮半島コーナーの「チャンスン」（村の守り神）、エクアドルのシュワル族の「縮小人首」、台湾の人形芝居等でした。２階はブラジル移民の開墾当時の生活の再現、日本各地の民具やおもちゃ、足で踏む脱穀機等の古い農機具、昔の看板等。また「暮らしの中の交通」コーナーには 1872 年（明治５年）の日本の鉄道開業当時の1等切符、明治・大正時代の関西私鉄切符等バラエティーに富んでいて興味深く、生活に密着したものが多く展示されていました。３階は、コーナーの前で見事な「馬形埴輪」が展示されていました（これは天理市で最大の布留遺跡から発掘されたもので古墳時代中期のものらしい）。他に円筒埴輪、古代の刀、更に古墳時代後期の重要文化財の武人埴輪、重要美術品の鐘や副葬品に加え、青銅品、土器、銀器、陶器、ガラス品は勿論、古代の瓦や石棺、石造物等、幅広く展示されていました。個人的には中国の唐三彩や地中海のガラス器、ペルシャの銀器等が印象的でした。それから城陽市の車塚古墳から出土した兜ですが、明治時代にＪＲ奈良線の工事で兜と副葬品が多く発掘され、現在は何故かこの展示品のものしかなく約 60 年前に保存されて、2016 年に新たに修復と保存処理がなされ今日に至っています。正式には「三角板革綴衝角付冑」と言って、地板に三角形の鉄板を用い、革綴じ技法又は鋲で止めたものらしく、やはり保存処理がされているため艶があり綺麗でした。このコーナーは薄暗くて余計な雑音が聞こえず、専門知識がなくてもなんとなく眺めていたくなるような光景で静かな博物館を満喫できました。また、当館は天理教の関連施設であり、その内容のものが多いかと思っていましたが、殆どありませんでした。

京都には、2030 年を目途に国立の拠点施設「文化財修理センター（仮称）」を設営されることを期待しています。

文化財講座　城陽市の最新文化財情報
久津川車塚古墳発掘調査速報等

恒例となりました「文化財講座」が開催されました。当日配布された資料を基に、その概要をお知らせします。

日 時　　6 月 11 日（ 日 ） 13：00 － 14：30
場所　　文化パルク城陽第３会議室
講師　　城陽市教育委員会
　　文化・スポーツ推進課文化財係
　　浅井　猛宏氏
参加費　無料
参加者　36 名

1. 久津川車塚古墳の発掘調査成果（令和４年度）
後円部の北東側と東側に４カ所の調査区を設定し、後円部下段斜面や墳丘の周囲を巡る周濠・外提・外濠の位置などを確認するための調査を実施した。

［まとめ］
・墳丘東側において、22-4 トレンチでは後円部下段斜面裾を、22-3 トレンチでは外提内側（周濠側）斜面裾を検出できたことで、昨年度までの成果とあわせてより正確な墳丘の復元数値を得ることができた。
　→後円部径：約 108 m、周濠底の幅：約 14 m
・墳丘東側の周濠底は、西側の周濠底より約 2.1 m高くなる。
→東側が高くなる立地地盤の高低差によるものと考えられる。
・外提内側斜面は地山削り出しの斜面に置き土をした後に葺石を施す構造であることや、外提内側斜面の葺石は墳丘のものより小ぶりな石が使用されていることが確認できた。
・外濠については、今回の調査で明確に確認することができなかったため、今後の調査の中での追及を検討していく。

2. 水主神社東遺跡の発掘調査成果
市道５号線建設工事に伴い、東西 8 m南北 83 mの調査区を設定して調査を実施し、上層と下層で2面の遺構の広がりを確認した。

［まとめ］
・縄文時代から中世まで、様々な時代の土地利用の状況を明らかにすることができた。
・島畑は、これまでの周辺調査成果に加えて、中世以降の水主神社東遺構跡一帯における耕作地利用を考える資料となる。
・調査区南端で自然流路の肩部を確認できたことで、今回調査地の南側でみつかっている自然流路の延長方向を推定することができ、周辺の地形を復元していく上で貴重な成果が得られた。
・縄文時代晩期の溝、弥生時代終わりから古墳時代初めの土坑などの遺構は、調査区の北側に集中していることを確認し、低地部の中で人々が生活を営んだ状況の一部を明らかにすることができた。

3. 令和４年度 JOYO エコミュージアム事業の取り組み

「まちの魅力再発見ツアー」、「地域資源に関する講演会」、「荒見神社本殿修理現場見学会」などの開催について紹介がありました。

講演終了後、希望者は資料館に移動し、展示中の遺物について詳しく説明をして頂きました。

特別講演会のご案内

友の会創立20周年記念事業の一環として、下記の通り、特別講演会を開催します。講師の若林正博氏の興味深いお話を伺うことができます。是非ご期待ください。

記

【講演会の概要】
日時　10 月 28 日（土）13：30 － 15：00
場所　文化パルク城陽第３会議室（西館３階）
講師　若林正博氏（京都府立京都学･歴彩館）
演題　**いつも寺田があった。**
　　将軍・家康の視線の先に。
定員　40 名程度
参加費　会員 200 円（一般 400 円）
申込み　10 月 20 日（金）10：00 から城陽市歴史民俗資料館へ電話（0774-55-7611）又は来館

【講演の要旨】
関ヶ原合戦に勝利した徳川家康が豊臣政権五大老から征夷大将軍に駆け上がった時期や将軍在任中、最も長く居所としていたのは伏見城でした。この時期を中心に家康やその家臣の所在や動向を解説します。

【講師略歴】
1968 年京都市伏見区生まれ。京都府立京都学・歴彩館資料課課長補佐（学芸員・司書・認証アーキビスト）。2011 年より現職の前身京都府立総合資料館勤務。専門は伏見学。
＜主な著作＞「伏見城攻城戦」（『どうする家康徹底解説・関ヶ原の戦い編』ＮＨＫ出版）、「伏見における黎明期の徳川政権－家康はどこに居たのか」（『京都学・歴彩館紀要』6）、「『看聞日記』から見る十五世紀前半の伏見」（『京都を学ぶ【伏見編】』ナカニシヤ出版）、「伏見城跡の変遷－近世～現代」（『京都学・歴彩館紀要』3）、など

城陽市歴史民俗資料館学芸員・調査員から
友の会会員の皆様へごあいさつ

市民の皆様が使いやすい古文書目録を目指します

城陽市歴史民俗資料館
古文書・民俗文化財調査員
水沼　尚子

令和５年６月に城陽市歴史民俗資料館、古文書・民俗文化財調査員として任用されました水沼尚子です。

差しあたりましては、『城陽市史』をはじめとする南山城の諸文献ともリンクした、門戸が広い古文書目録を作成すべくデータの整理を行っております。さらに従来の調書より一歩も二歩も踏み込んで個々の古文書の情報を得、主たる内容のみならず、その周辺の名前・地名・出来事にもアクセスできるように一点一点の読み込みを深めていければと思っております。研究者はもちろん、城陽市に興味を持たれた方々がその意欲を損なわずに、スムーズに目的の史料に辿りつける目録になることを目指しております。同時に、ハード面では収蔵庫内の古文書収納形式の統一化を目指します。限りあるスペースにおいて、史料の保存を重んじながら、閲覧や展示の際の出納をしやすくするための方法を模索中です。

また、来年度には古文書講座を担当させていただく予定です。くずし字を読み解く充実感を重視しながら、江戸時代や城陽地域の生活を窺う楽しさを味わっていただけるように準備を進めていきます。より多くの方に、古文書というタイムマシーンを通じて、その歴史を特等席で見て・感じていただきたいと思います。

秋季特別展では、城陽を軸とした近世の絵図の世界を取り上げます。ゴリゴリくんも、いつもと違った装いに…？　色鮮やかな中に歴史を語る絵図史料とともに、お楽しみいただければうれしく存じます。

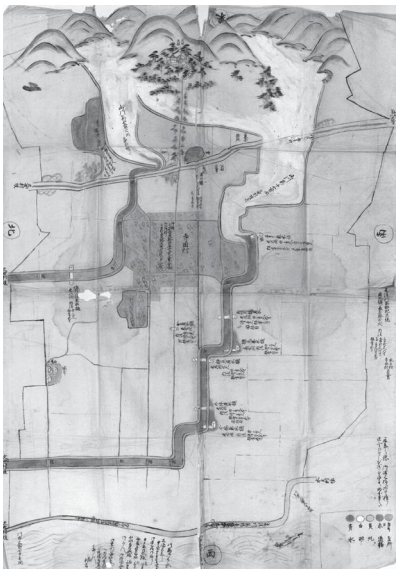
JOYOエコミュージアム・令和5年度秋季特別展

「城陽の絵図と地図－描かれた近世の村－」

城陽市内には、江戸時代に作成された地域の絵図が数多く遺されています。
それらの絵図は、地域の景観や、争論と和解、災害やその対策など、その時代の地域の様子を私たちに伝えてくれます。

この秋季特別展では、近世の城陽市域を物語るこれらの絵図とともに、精巧な日本地図を作成した伊能忠敬が奈良街道を通って当時の長池に宿泊した記録と、城陽市域の描かれた伊能図についても併せて紹介します。

エドワード・S・モース著『日本のすまい　内と外』1979　鹿島出版会　より転載
明治時代初期に日本を訪れ、大森貝塚を発見したことで有名なエドワードモースの著書『日本人の住まい』には、「山城の長池にある村の街道」として、モースがスケッチした当時の長池の家並みが載っています。



寺田村川筋等絵図
正徳2年 (1712 年)
個人蔵
幕府の木津川巡見使の巡見に際して提出するために作成された絵図で、近世中期の寺田村の水利土木の様子が詳細に描かれています。

【期間】令和５年10月21日（土）～12月17日（日）
ただし、10月23・30日、11月６・７・13・20・24・27日、12月４・11日は休館
※関西文化の日11月３日（祝・金）及び
　最終日の12月17日（日）は無料

【関連事業】

① JOYO エコミュージアム
まちの魅力再発見ツアー共催事業
第 95 回文化財講演会
日 時：令 和 5 年 11 月 23 日（ 木・ 祝 ）14:00 ～ 15:30
場所：城陽市立福祉センター大ホール
テーマ：
「城陽市の凸凹を歩く
　史資料からみた地域の景観変遷」
講師：京都ノートルダム女子大学非常勤講師
　　京都高低差崖会崖長　梅林秀行氏
定員：150 名
参加費：無料
申込：10月17日（火）10:00から電話申込

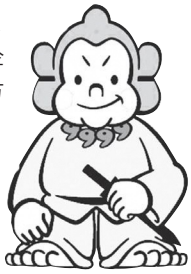
②ギャラリートーク（学芸員による展示解説）
日時：11月３日（祝・金）・12月３日（日）
　　14:00 ～ 15:00
　場所：歴史民俗資料館特別展示室
　申込：当日資料館受付で申込
　参加費：無料（観覧料必要・11月３日は無料）

③地図のキーホルダーをつくろう！
日時：令和５年11月12日（日）
　　① 11:00 ～、② 13:30 ～、③ 14:30 ～
場所：歴史民俗資料館工作室
講師：資料館職員
対象：小学生以上　定員：各回先着５名
参加費：無料
申込：11月５日（日）10:00より電話で申込
　　（お１人様につき２名分まで申込可）

会員募集中！

城陽市歴史民俗資料館友の会では、研修見学会、文化財講座、古文書講座、仏像講座等いろんな企画を計画しています。ぜひ お友達、お知り合いの方にご紹介ください。

歴史民俗資料館年間事業
友の会ボランティアについてのお問い合わせ
城陽市歴史民俗資料館
電話 0774-55-7611 FAX0774-55-7612



城陽市歴史民俗資料館友の会だより
第 52 号

発行日　令和５(2023)年10月７日
編　集　城陽市歴史民俗資料館友の会広報
連絡先　城陽市寺田今堀１番地
　　城陽市歴史民俗資料館
　　電話 0774-55-7611 FAX0774-55-7612
　　www.city.joyo.kyoto.jp/rekishi/